

農場研究報告投稿規程および原稿作成要領（令和 7 年 4 月改定）

（投稿規程）

1. 鹿児島大学農学部農場研究報告（以下、本報告と呼ぶ）に掲載する論文は、農学部教員、技術職員、学生などが、原則として農場の施設、設備、生産物などを利用して行った学術的に価値があり、かつ農業現場において利用価値のある未発表の原著論文、総説および資料とする。
 - 1) 原著論文：科学的な手法に基づいた研究で、新規の事実と価値のある結論を有するもの。
 - 2) 総説：農業科学・技術に関する特定の研究課題について、関連分野の業績を引用し、研究動向および研究の解決の方向に関して著者の課題意識に基づいて論説したもの。
 - 3) 資料：農学に関する学術情報、統計などを解説的に紹介したもの。
技術および検査方法などを教育的に解説したもの。
環境因子（土壌、気象、生物など）の記録・分析結果、部局発展の歴史など。
2. 論文の投稿者は原則として農学部教員（退職者または転任者を含む）または農学部技術職員（退職者または転任者を含む）であること。学生および研究生が筆頭著者のときは教員が共著者であること。学部外の共著者については、所属先の所在地を併記する。
3. 本報告に掲載された論文の著作権は、鹿児島大学農学部農場研究報告編集委員会（以下、編集委員会と呼ぶ）に帰属する。また、本報告を他に利用しようとする場合、当該利用者は、あらかじめその利用につき編集委員会の許可を得なければならない。
4. 投稿予定者は 8 月 31 日までに、著者名、所属、表題、種類（論文・和文・英文、総説、資料）を記載した「投稿原稿申し込みカード」を編集委員会事務局（農場事務担当係長：nknojo@kuas.kagoshima-u.ac.jp）に電子メールの添付ファイルとして提出する。
5. 論文は和文、英文のいずれも受け付けるが、下記に定める原稿作成要領に基づいて作成する。
6. 作成した原稿は PDF 化し、編集委員会指定の「投稿原稿送付カード」と共に電子メールの添付ファイルとして 10 月 31 日までに編集委員会事務局に提出する。「投稿原稿送付カード」に記載する事項は、投稿責任者とその連絡先および著者名、所属機関名、表題、別刷希望数、原稿（本文、図、表、写真など）の枚数などである。なお、投稿が 10 月 31 日を超えた場合は投稿辞退とみなすものとする。
7. 投稿原稿は投稿された日を受付日とし、編集委員会によって採択された日をもって受理日とする。受付日と受理日は論文の第 1 頁目の脚注に記載する。
8. 受付原稿は編集委員会が選定した査読者 1 名により、査読を受ける。また、受付原稿について編集委員会はその内容、字句について、加除・訂正を行うことがある。1 月 31 日までに査読が完了しないときは、次年度掲載となる場合がある。
9. 印刷経費についてはその年度の実状に応じて、著者にその一部を請求する場合がある。カラー印刷の図版（写真を含む）は実費の全額を著者負担とする。
10. 別刷は論文 1 篇につき 30 部まで無償とし、それを超える分の経費については著者負担とする。なお、発刊号全体の PDF 版は無償で提供する。
11. 投稿者がカラー写真代などの著者負担金の支払いを怠っているときは、論文掲載を保留することがある。
12. 原稿が採択された場合は、最終稿 1 部（A4 用紙片面印刷体）と、それを納めた電子ファイルを編集委員会事務局に提出する（図、写真を含む）。
13. 原稿などは、印刷終了後に返却する。
14. 「投稿原稿申し込みカード」と「投稿原稿送付カード」は、別添カードを使用する。
15. この規程に定めのない事項は、編集委員会が処理するものとする。

（原稿作成要領）

1. 投稿原稿は「Word」を用いて執筆し、A4 判とする。
書式設定は、和文は 1 頁を 40 字×25 行、英文は 1 頁を 60 字×25 行（語間のスペース、ピリオド、ハイフンなどを含む）とし、字の大きさは 12 ポイントで、行間を充分にあけて横書きにする。余白は上下左右とも 25 mm 程度あけ、用紙の下端部中央に頁数を、左側余白部に 5 行毎に行番号を記入する。行番号はページ毎にふり直す。
2. 和文論文の内容区分および配列は以下のとおりとする。

①表題, ②著者名, ③所属機関名および所在地, ④以上の①～③の英訳, ⑤Summary, ⑥Key Words (英文), ⑦キーワード (和文), ⑧本文 (原則として緒言, 材料および方法, 結果, 考察), ⑨要約, ⑩引用文献, ⑪表, 図, 写真の順とする。ただし, 結果と考察を一括して結果および考察としてもよい。また, 謝辞を入れる場合は要約の最後に続けて記載する。

5 3. 表紙の書き方は次のとおりとする。

1) 表題, 著者名, 所属機関名, その所在地は英訳を付けて原稿の 1 枚目に記す。さらに, 内容を端的に表す略表題 (ランニングヘッド) を記入する。和文では 28 字以内, 英文では 40 字以内とする。

10 2) 著者が複数で同一機関に所属する場合は著者名を連記し, 次欄に所属機関名とその所在地を記す。著者が異なる機関に所属する場合は, 著者名を連記し, その右肩に肩付き数字^{[1,2,...}]を付け, 次欄に数字ごとに所属機関名とその所在地を記す。投稿責任者氏名の右肩に*を付して, 脚注に「*Corresponding author. E-mail: xxxx@yyy.zz.jp」と記す。なお, 著者に所属機関の変更が生じた場合は著者名の右肩に^{[a,b,...}]を付し, 脚注にその旨を記す (投稿責任者を除き, 所在地の記述はしない)。

3) 上記和文記載の英訳については, 著者名は姓, 名の順に書き, 所属機関名とその所在地はイタリック表記とする。姓はすべて大文字で記載する。

15 4. Summary は原稿の 2 頁より始め, 1 行 65 字ダブルスペース 25 行を原則として記載する。字数は 300 語以内とする。Summary に続けて, 5 語以内の Key Words および日本語のキーワードを加え, いずれもアルファベット順 (ABC 順) に記載する。表題に含まれない単語が望ましい。

5. 3 頁以降は, 緒言, 材料および方法, 結果, 考察, 要約 (謝辞), 引用文献の各項目に区分して記述する。

20 1) 句読点は「, .」とする。また, 句読点, 括弧, ハイフンなどは全角とし, 数字は半角とする。数字と単位の間には半角スペースを挿入する。ただし, °C, % の場合に限り, スペースは挿入しない。

2) 数字は原則として, アラビア数字を用いるが, 熟語として使用されている数字は漢字とする (例: 一部分, 一度)。

3) 要約は 700 字以内とする。

4) 字体の指定は, ゴシック体_____, イタリック体_____, のように該当語の下に黒線で入れる。

25 5) 文献引用の記載については, 単名の場合は (藤巻, 2002; 稲葉, 2003; Mowlen, 1987), 2 名の場合は (中條・堀込, 1998), 3 名以上の場合は (Bakke ら, 1997; 藤川ら, 1971) のように記載する。

6) 複数の文献を引用する場合の記載順序は, 筆頭著者, 2 番目以降の著者を含め, アルファベット順とする。著者名がすべて同一の場合は発表年順とし, 同一著者かつ同一年の場合は発表年のあとにアルファベットを附記し区別する (例: 大森, 1999a, b)。

30 7) 用語, 単位など

数字は, 算用数字を用い, 度量衡の単位および略語は C G S 単位または S I 単位を用いる。数字および英字は半角文字を用いる。

〔例〕度量衡の単位および略語

35 mol, mmol, N, %, m, cm, mm, μm, nm, pm, cm², kl, dl, l, ml, μl, kg, g, mg, μg, ng, pg, hr, min, sec, rpm, Hz, Bq, cpm, dpm, ppm, ppb, °C, J, pH, LD₅₀, IU, kDa

8) 外国語

外国名, 外国機関名などは, 原語のまま第 1 字を大文字で記述する。ただし, 国名, 地名などは原則としてカタカナで表示する。

9) 動植物名および学名

40 動植物名は, 原則としてカタカナを使用する。学名は, 初出の箇所では, 必ず 2 名法による正式名を記す。それ以外の箇所では混乱の起こらない限り, 属名はイニシャルのみとしてよい。種名について論ずる場合などはこの限りでない。学名はイタリック体とし, 命名者名は普通字体とする (英文も同じ)。

10) 薬品名など

45 薬品・機器名: 原則として, 薬品名は一般名または局方名をカタカナで表示し, 機器名などは一般に使われている名称を和文で表示する。

6. 表・図 (写真) の作成は次のとおりとする。

1) 表, 図 (写真) は 1 枚ごとに作成する。表題および説明は和文, 英文のいずれでも可とする。表, 図 (写真) はそれぞれ第 1 表 (Table 1), 第 1 図 (Fig. 1) というように一連の番号を付ける。

50 2) 表はエクセルで作成する。表の表題は表の上側に置く。表中の縦罫線は使用しない。脚注を示すにはアルファベットの逆順に (z, y, x, ...) 肩付けする。統計的有意差を示すにはアルファベットの正順に (a, b, c, d, ...) 用

い、その旨を脚注に示す。アスタリスク（*5%、**1%）の使用は可。

3) 写真は、図と記載して一連の番号をつける。カラー印刷を希望する場合は、その旨を明記する（費用は著者負担）。

4) 図（写真）の表題および説明文は、図の番号順にまとめて別紙に記載し、図の前に置く。

5) 表、図には、それぞれ右肩に筆頭著者名と番号を記入する。

7. 本文中での表、図、写真の挿入箇所は、原稿の右欄外に赤字で指定する。

8. 引用文献の記載は次のとおりとする。

1) 記載順序は、筆頭著者、2 番目以降の著者を含め、全てアルファベット順とし、著者名が同一の場合は発表年順とし、同一著者かつ同一年の場合は発表年のあとにアルファベットを附記し区別する。

2) 文献記載は、著者名、年次、表題、誌名、巻、頁とする。

3) 引用文献リスト中の英数字の後に付すコンマ（,）、ピリオド（.）、セミコロン（;）、コロンの（:）は半角文字とし、その後に半角スペースを挿入する。誌名の短縮形は、それぞれの学会誌の指示に従うものとする。各巻を通じて頁を付してある場合は、巻のみとし、号数は省略する。

4) 私信や未発表のデータを引用する場合は、引用文献に記載せず、本文中の引用箇所にそれぞれ（私信）、（未発表）と記す。ただし、投稿して受理されたものは、印刷中（in press）を巻の後にカッコ付けで付し、引用文献に列記する。

5) 単行本の場合は、著者名、年次、書名、頁、発行者、発行地とする。

6) 訳本の場合は、著者名、年次、書名（訳者名）、頁、発行者、発行地とする。

7) その他、引用文献記載は所属学会誌に準ずるものとする。なお、英文論文の文献リストにおいては、日本語論文の場合は（In Japanese）を末尾に、日本語論文で Summary ないしは Abstract がある文献には（In Japanese with English summary）を末尾に記入する。日本語で書かれた単行本の場合、英文の題名、著者名、出版社名などがあるときは、ヘボン式ローマ字で表記し、いずれも（In Japanese）を末尾に記入する。

[引用文献の例]

Bakke, H., T. Steine and A. Eggum. 1997. Flavour score and content of free fatty acids in goat milk. Acta Agric.Scand. 27: 245-249.

中條忠久・堀込 充. 1998. おおつぶ星. 品種登録. 6926.

藤川琢磨・浜島守男・安田耕作. 1971. 短鎖脂肪酸を含むグリセリドのガスクロマトグラフィーによる脂肪酸組成分析法. 油化学. 20: 138-143.

藤巻 宏. 2002. 生物統計解析と実験計画. p. 86-98. 養賢堂. 東京.

稲葉昭治. 2003. 野菜のポストハーベスト. p. 152-190. 矢沢 進編著. 図説野菜新書. 朝倉書店. 東京.

Mowlen, A. 1987. 家畜. p. 78-87. Broom, D. M. 編著. 動物大百科第 10 巻（正田陽一監修. 澤崎徹他共訳）. 平凡社. 東京.

世界保健機関. 2012. 飲料水の質におけるガイドライン p.5-12. [Online] <http://www.who.int/water-sanitation-health.pdf>. (2016 年 5 月閲覧)

9. 英文原稿の内容区分および配列

1) 表紙に Title, Author(s)' name(s), Affiliation(s) and Mailing address(es), 2 頁に Summary, Key Words, 3 頁以降に Text (Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgements, References), 和文要約（表題、著者名、所属機関名および所在地を記入）を順番に作成し、最後に Tables and Figures を添付する。ただし、表紙にランニングヘッド（英文）を記入して置く。

2) 原稿は著者の責任において文法上の誤りのないようにし、提出前に熟達者の校閲を受けること。外国人英文校閲者の紹介は、編集委員会では行わない。

10. 資料および総説の内容区分と配列

1) 資料は、表紙に①表題、②著者名、③所属機関名および所在地、④以上の①～③の英文訳、2 頁以降に⑤本文（体裁は投稿者の裁量とする）、⑥要約、⑦キーワード、⑧引用文献を番号順に作成し、最後に⑨表、図、写真を添付する。

2) 総説は、資料の内容区分から⑥要約、⑦キーワードを除いた形で執筆・配列する。

11. 執筆に当たっては、本報告の最新号に掲載してある論文を参照すること。